

野球との出会い

熊本県立芦北高等学校 2年 松本 興英

私が野球と出会うきっかけを作ってくれたのは父です。父が野球をしている姿を見て、私も野球をしてみたいと思うようになり、小学校4年生から本格的に野球を始めました。最初はとても楽しく、父がアドバイスをくれると、すぐに上達していきました。しかし、中学校に入学すると、勉強もいそがしくなり、部活動の練習量も小学校とは比べものにならなくなりました。次第に疲れが溜まっていき、悩みを誰にも相談できずに一日一日を必死で過ごしていました。

ある日突然、朝起きることができなくなり、親が無理に起こそうとすると吐き気とだるさに襲われるようになりました。それでも頑張って学校に行くと、学校で倒れてしまうこともありました。状態は悪くなる一方で、全く起きることができない日が続くようになりました。理解してくれない人たちから「現実逃避だ。」と言われ、精神的にも辛い日々が続き、病院に行くことになりました。そこで、ある病気であることが判明し、服薬を始めたことで、状態は改善していきました。周りも病気のことを理解してくれるようになり、沢山のサポートをしてくれるようになりました。特に野球部の仲間の言葉に心が救われました。病気にかかった時は、「もう野球は辞めよう。」と思っていましたが、「いつでも来いよ。」「無理はするなよ。」という声掛けのおかげで部活動に復帰することができました。そして、中学生最後の大会が終わり、自分の野球人生も終わりにしようと考えていました。

高校に進学し、体への負担が少ないことを新しく始めようと、様々な部活動の体験入部に行きましたが、結局野球部に惹かれ入部しました。最初は不安ばかりでしたが、良い先輩と同級生に恵まれ、野球を続けて良かったと思うようになりました。高校での野球は中学校と違い、指示されたメニューに取り組むだけでなく、自分たちの課題を見つけ、練習することができるので大変やりがいを感じています。そして、高校での野球が私自身に変化を与えてくれました。病気が完治しておらず、体調が優れない日に部活動を遅刻したことがありました。その際に、母から遅刻の旨を先生に連絡してもらおうと、後から顧問の先生が「親に任せず、自分のことは自分で言いなさい。」と言われました。今までは病気のこともあり、受け身の姿勢で何事にも取り組み、生活していたことに気付かされました。

「自分で目標を立てて頑張る、自身の役割を考えて行動する、仲間と協力することの大切さ。」当たり前のことですが、部活動を通して改めてそのことを意識するようになりました。それに気付かせてくれた先生、支えてくれる仲間の存在、そして、私の健康を気遣いながらも野球をさせてくれる両親に感謝しています。これからは、みんなが私に与えてくれた力を、私のように悩みを抱えている人の支えになること、野球や将来の夢に向かって頑張る姿を見てもらうことで返していきたいです。